

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520358

研究課題名(和文) 縦断データによる日英バイリンガル言語習得メカニズム研究

研究課題名(英文) A Study on the Japanese-English Bilingual Language Acquisitional Mechanisms from a Longitudinal Perspective

研究代表者 田浦 秀幸 (TAURA, Hideyuki)
大阪府立大学・人間社会学研究科・教授

研究者番号：40313738

研究代表者の専門分野：応用言語学・バイリンガリズム・心理言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：バイリンガリズム、言語習得メカニズム、縦断研究、日英バイリンガル、心理言語学、

1. 研究計画の概要

日英バイリンガル兄妹から10年間に渡り(9才～18才、5才～16才)英語データを収集し、英語習得がモノリンガル英語母語話者の習得段階に比較して類似・相違している点について明らかにするとともに、同じ家庭・学校環境で育った兄妹の言語習得差についても考察を行う。結論の信頼性と妥当性を確保できるよう、収集データにはスピーキング、ライティング、標準テストが含まれ、流暢さ・複雑さ・正確さの3観点から分析を行う。

2. 研究の進捗状況

2被験者から収集したスピーキングデータを流暢さ・語彙レベル・正確さの観点から下分析を完了した(1・2年目)。3年目には、第一言語としてのバイリンガリズムの先行研究及び英語母語話者の母語習得研究から、De Houwer (2009), Altarriba and Morier (2003), Bialystok (2003), Butler and Hakuta (2003), Chin and Wigglesworth (2007), Meisel (2003), Nippold (2006), Pearson (2008), Piller and Pavlenko (2003)ら本研究と深い関連性のある研究を精査し、変数として加えるべきものを再考した。新たに加えられた変数は語彙に関するものと物語の組み立てに関するものである。語彙に関しては、up, down, sweetなど平易な単語であるが第2義的意味の習得(例えばcalm downのdown)がモノリンガル児と同等の時期に起こっているのかどうか、産出データに関して分析を開始した。これ以外に、抽象語(freedom, longevity等)、曖昧語(stuff, thing等)、文学用語(doubt, assume等)、程度を示す形容詞・副詞(very, decidedly等)、文間副詞(similarly, contrastively等)も分析対象とした。更にTTRだけでなくCLANを用いてvcd分析も追加するとともに、'ity', 'ious'等の接尾辞の使用様態も調査対象とし

た。英語母語児童が習得するイディオム100についてもモノリンガルとの比較を行った。一方物語の組み立てに関しては、被験者から産出英語データを収集する際に用いたMayerのfrogシリーズを用いた先行研究で7要素が聞き手にしっかりと伝わっているのかを計測する指標として使われている例が多くあるので(Ragnarsdottir, 1991; Lanza, 2002)この7指標を借用し、本研究の各データに照らし合わせて7要素が加齢に伴ってモノリンガルと同様の習得を示すのかどうか、2被験者間に差があるのかどうかについて検証を始めた。この物語データについては既にエラー分析が4-Mモデルを用いて完了しているが、非常にエラーが少ないので、再度音声データを聞き直し、スクリプトも読み直す作業を英語母語話者が行い、新たに加えた分析結果とともにモノリンガルデータとの対比分析に用いる予定である。当初予定していなかった変数の追加はあるものの、3年間で下分析を完了し、4年目で量的・質的分析をまとめあげる計画は着実に実行されつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に伸展している。

(理由)上記の通り、若干の変数追加はあったが下分析はスピーキングデータ分析に関しては、予定通り進んでいる。ライティングデータ分析も語彙分析は終了しているので、4年目前半に新変数の分析に集中的に取り組むことで問題なく4年間の目的を達することができるはずである。

4. 今後の研究の推進方策

研究をより意義のあるものにする為に3年目に変数の追加を行った為に若干作業量は増えたが、このままのペースで4年目に成果をまとめ上げることができる予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① TAURA, Hideyuki & Taura, Amanda (2010) 'Bilingual First Language Development of Two Japanese-English Bilingual Siblings: Literature Review on Possible Dependent Variables' 大阪府立大学・言語文化学研究(言語情報編)第5巻. 査読有.
- ② TAURA, Amanda (2009) 'Bicultural Teen Identity in Japan' The Bilingual Family Newsletter, 4, 4-5. 査読有.
- ③ TAURA, Hideyuki & Taura, Amanda (2008) 'Expatriate students' L2 writing retention and attrition back in the L1 environment' IJL, International Journal of Applied Linguistics, 156, 297-298. 査読有.
- ④ TAURA, Hideyuki et al (2008) 'Age Effects on Bilingual Stroop Interference: A Test to Demystify Competing Hypothesis - The Inhibitory Mechanism and The Reserve Hypothesis'大阪府立大学・言語文化学研究(言語情報編)第3巻, 33-48. 査読有.
- ⑤ TAURA, Hideyuki (2008) 'Is Language Attrition Caused by the Qualitative Change in One's Mental Lexic or a Mere Retrieval Failure? An Exploratory Study Using Myers-Scotton's 4-M model' Proceedings of the 6th International Conference of Cognitive Science (ICCS2008), 151-155. 査読有.

[学会発表] (計7件)

- ① 田浦秀幸 (2009) 「語彙・スピーキング面から見た日英バイリンガルの第1言語習得 - 2縦断研究」第1言語としてのバイリンガリズム研究会 第1回大会.2009.10.18.関西学院大学.
- ② 田浦秀幸 (2009) 「Bilingual Children: バイリンガル児の第2言語習得条件とその保持」ASIJのJPPFG招待講演. 2009. 3. 20. ASIJ(東京アメリカンスクール).
- ③ TAURA, Hideyuki & Taura, Amanda (2008) 'Critical Period Revisited Through L2 Attrition Data of Expatriate Children' 15th World Congress of Applied Linguistics (AILA)2008.8.29.ドイツ・エッセン.
- ④ TAURA, Hideyuki (2008) 'Is Language Attrition Caused by the Qualitative Change in One's Mental Lexicon or a Mere Retrieval Failure? An Exploratory Study Using Myers-Scotton's 4-M model' 6th International Conference of Cognitive Science.2008.7.28.韓国ソウル.
- ⑤ TAURA, Hideyuki & Taura, Amanda (2007) 'Expatriate students' L2 writing retention back in the L1 environment' Symposium on Second Language Writing2007.2007.9.16.名古屋.

[図書] (計1件)

- ① 田浦秀幸(2008)'Language Attrition and Retention in Japanese Returnee Students'明石書店. 1-495.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]